

夢をかたちに

令和 8 年 度
出水商業高等学校
進路指導部
進路便り
No. 6 2026. 10. 21

3 年生の進路状況について

例年通り、9 月 16 日から就職試験が始まりました。進路出発式での後輩からのエールに応えるように、3 年生の先輩方は日頃の学習や面接練習の成果を選考試験で存分に発揮し、続々と内定通知が届いています。一般企業就職希望者 59 名中 53 名が 10 月 16 日までに内定し、自己就職者 2 名と合わせて 55 名が内定しています。公務員試験は 6 名が一次試験に合格し、二次試験に進んでいます。昨年度に引き続き売り手市場の状況は変わらず、求人数は 9 月末時点で 2,050 件を超えています。本校生徒の希望職種は、事務や製造、接客・販売等が例年人気となっていますが、事務職に関してはなかなか募集がないのが実状です。一方で、電気・建設関係、宿泊業の求人数がとて多く、職種によっては深刻な人手不足となっているようです。1・2 年生の皆さんも求人票を見て、自分の進路について真剣に考える機会をぜひ取りましょう。

進学希望の 3 年生は、総合型選抜で早期に進学先が決まった生徒もいれば、これから入学試験を受験していく生徒もいます。現段階での進学合格者は 25 名となっています。早い段階での受験先・受験形態決定のために、1・2 年生にはオープンキャンパスに参加することを強く勧めます。なるべく多くの学校のオープンキャンパスに参加し、費用面や施設・カリキュラムの充実性、自分の学びに最適かどうか、などを複数校で比較できるようにしましょう。

さて、3 年生の進路内定者の皆さんにお願いがあります。皆さんはあくまで「内定」の状態であり、まだ決定ではありません。卒業することが大前提で、在学中の行動に問題があれば、「内定取り消し」になってしまう可能性もあります。卒業まで気持ちを引き締めて、就職・進学先で必要な知識や資格等の取得に努め、生活態度等も指導を受けることがないよう、残りわずかな高校生活を有意義なものにしていきましょう。また、これから受験に臨む級友のためにも、面接練習等への協力をぜひお願いします。受験は団体戦と言われます。3 年生が一丸となって全員合格を達成しましょう！

～進路状況～(10 月 16 日現在)

就職希望者 68 名：民間希望 59 名[県内 36 名(うち管内 24 名) 九州 19 名 中京 3 名 関西 1 名]

公務員希望 6 名 自営・縁故 3 名

職種別：総合事務職 21 名、販売営業 9 名、製造・技能職 14 名、サービス・その他 24 名

※上記職種は希望者および公務員・縁故も含む数です。

進学希望者 73 名：大学 23 名 短大 4 名 専門学校 46 名

進路実現のために ～1・2 年生の皆さんへ～

単元テストや期末考査、検定のたびに「次こそは!」と心に誓う人は、少なくないと思います。その時の気持ちに嘘偽りはないと思いますが、その後どうでしょうか。毎回同じ後悔を抱えていませんか。もし、このまま 3 年生へ進級し、進学・就職試験に臨むとなると、「次こそは!」はもう通用しません。

心理学者のギロビッチとメドヴェックによると、後悔には「行動しなかった後悔」と「行動した後悔」の 2 種類があります。中でも、「行動しなかった後悔」はより強く悔いが残るそうです。これは、「本当はもっと良い未来があったかもしれない」という感覚が消えないからです。未来はどうかなんて誰にもわかりませんが、やらずに後悔するくらいなら、今ここで自分の行動や考え方を变えて、まずは行動してみませんか。

ここで、成功する人の共通点を 2 つだけ紹介したいと思います。①目標まで逆算して行動すること。目標を持つことの大切さは一般的によく言われていますが、成功する人は、目標までを逆算して計画・行動しています。進学・受験までを逆算して、そこまでに必要なことをまず書き出しましょう。皆さんであれば、検定や大会の成績であったり、学業成績や地域活動への参加実績であったりします。次に、いつまでにすべきか期限を決め、あとは行動あるのみです!②自責志向。これは、環境や他者のせいにせず(他責志向)、自分の行動や考え方に責任を持ち、結果から行動を改善するということです。人間なので失敗はありますが、そこから何を学び、その後に生かすかが大切なのです。

3 年生が進路に向けて努力している姿を目にしてきた今こそ、1・2 年生の皆さんが今日からできること、すべきことは何か考えて、行動しましょう。「次こそは!」はありません。

受験先を決める

(1) 就職の場合

求人票が7月1日以降各企業から届きます。ただし皆さんが閲覧できるのは膨大な量の求人票を、皆さんが受験希望するであろう企業や職種で分類、パンフレットを整理してからになります。そこで初めて皆さんは求人票をタブレットで確認することができます。そこから受験先決定まで3週間弱です。その間に、ほかの生徒と競合したり、昨年度までできていた求人票が来なかったり、他にも様々なことが予想されます。それを乗り越えてようやく三者面談で受験先を決定し、校内選考会に臨むことになります。校内選考会に無事合格したら、本番の受験となりますが、受験先を決めてから志望理由や面接内容の準備を**しては絶対に間に合いません!**早い段階から希望職種を絞って、面接ノートを作成しておきましょう。履歴書作成では取得した検定記入欄があります。1・2年で取得しておかなければ、何もアピールポイントがなくなってしまいます。検定だけでなく、欠席日数、評定平均、文字力テストの平均、進路マップや一般常識模試、小論文模試等、日々の積み重ねが一番大切なのです。1・2年生の皆さんの受験はもう始まっています!

(2) 進学の場合

就職と同じように、欠席のないことや学力が大切ですが、上級学校で専門的に学ぶうえで、興味・関心・適性があることが大前提です。適性検査やガイダンス等を利用し、進学先を検討してみてください。OCへの参加も長期休業等利用して参加しましょう。進学に関しては以下の受験形態の確認を必ずしてから受験先を決めましょう!

進学の受験形態について

受験の形態は学校によって様々です。自分の強みを活かせる受験形態をしっかりと把握しておくことが大切です。また自分の志望校がどんな学生を求めているのか(アドミッション・ポリシー)を必ず確認しましょう。受験を制するために、まず知ること・情報収集から始めましょう!

学校推薦型選抜 (公募制)	特定の条件があり、その条件を満たしている者を学校として推薦し、受験する。書類選考、面接、それらに加えて小論文、実技などを課す。また、専願であることが原則。推薦書の中で学力の三要素の評価が必須化される。
学校推薦型選抜 (指定校制)	上級学校より高校を指定して生徒の推薦を依頼する制度。上級学校および高校で設定した条件(評定平均値や成績順位、欠席日数など)を満たした者で、高校内での選考会で推薦が決定した者が受験可能。合格したら必ず入学しなければならない。年度ごとに変更があり、必ずあるわけではない。
総合型選抜	「その学校で学びたい」という学習意欲や学校への適性、またその人の個性や能力などを評価する入試。「志願者本人の記載資料」などによる書類審査と、面接に加え、小論文や口頭試問、実技テストなどが導入される。エントリー時期は、学校推薦型選抜、一般選抜より早く設定されている(3年次の7月から始まるケースもある)。
一般選抜	書類(調査書・志願者本人の記載資料等)および教科試験による選考が一般的である。専門学校の中には2学期中に受験日を設定する場合もあるが、多くの大学・短期大学等は1月後半以降の受験が一般的である。
特待生選抜	試験の結果や高校での学業成績に応じてランクが設けられ、それにより免除金額が異なる場合もある。学校独自の制度のため、書類審査、面接、筆記試験、適性検査など、選考方法は各校により異なる。

何が出るの? 就職試験 Part2

前号でも紹介しましたが、今回は今年度実際に出題された問題を見てみましょう。

国語: 日本最古の歌集は何か。

社会: リンカーンが出した宣言は何。江戸幕府最後の将軍は誰か。

数学: 180の25%はいくつか。

英語: 英語の1月~12月の並べかえ。

理科: 個体から液体になることを何というか。

時事問題: 現在の首相名。今年のサッカーワールドカップの優勝国はどこか。

一般常識: ビジネスの「ほうれんそう」とは? AIを日本語で。

何事にも準備が大切です! 試験の対策をするためには、まず試験内容を確認! 一般常識テストは対策ができます。後悔しないように今から新聞やニュースを見る、本を読む、文字力対策などできることから始めよう!